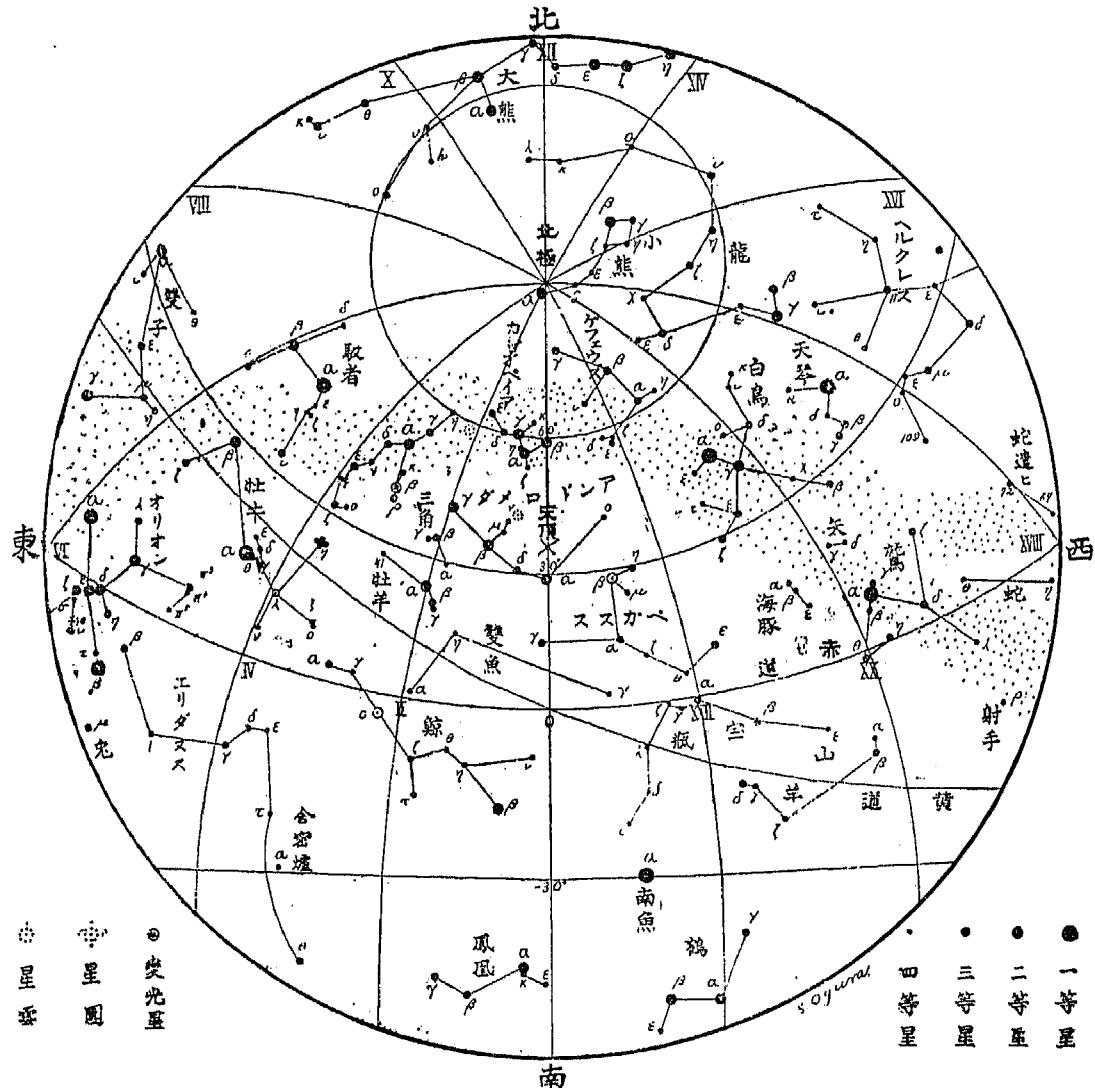


明治四十一年三月三十日第三種郵便物認可(毎月一回十五日發行)
 大正八年十月十二日印製納本 大正八年十月十五日發行

天文月報

號十第 卷二十第 月十年第 正八年

時八後午日六十 天の月一十 時九後午日一



Contents:—Shiro Inoue, On the Brilliant Large Prominence—Memorial Photograph—Prof. Li Tero—International Research Council held at Brussels, Inst July.—The Recent Solar Eclipse.—Painting the Corona.—Polar Cups of Venus.—Kopff's Comet 1906 IV (1919 a).—Comet 1919 b (Metcalfe) or 1847V (Borsen).—1919 c.—Schaumasse Comet.—Parallax of the Pleiades.—Parallax of Nova Aquila 3.—Twelfth and Thirteenth Nova in the Andromeda Nebula.—Mira Ceti.—Abolition of the Daylight Saving Law in America.—Hindu Astronomical Deities.—Calendar Reform Bill in Germany.—Rise of Annual Subscriptions of Astronomical Journals.—New Draper Catalogue of Stellar Spectra.—Radio Time-Signal in New Zealand.—Wardstrom on Mt. Wilson.—Observation of McCallum.—Finley's comet—A Great Meteor.—The Face of Sky for November.—Tilcazi Ursula, Pop Jar Course of Astronomy.

Editor: Tilcazi Ursula. Assistant Editors: Kunio Arita, Kiyohiko Oyama.

日 次

半旗強き大紅燈

ローベルの記念寫真

理學博士寺尾源先生の辭任

ブランセル國際科學研究會議會

雜報

去五月の日食觀測成績

コロナの寫生

金星の極延

コツブ彗星

一九一九年七月彗星

一九一九年八月彗星

シヤウツセ彗星

ブレヤデスの距離

鷲座新星の暫定視度

アンドロメダ星雲中の第十二、第十三新星

鯨座ミラの周年の極大

米國に於ける日光節約法廢止

獨逸に於ける新曆法案

印度の天神

天文雜誌の値上げ

新ドレバー星表

新西蘭島の細編報時

ウイルソン山天文臺の暴風雨

メトカイフ彗星 δ の觀測

大流星の觀測

ファインレー彗星

十一月の天象

天 圖

惑星だより

太陽、月、變光星

星の掩蔽、流星群

天文學解説(三九)

井上四郎	一五三
有田邦雄	一五四
一五六	一五六
一五八	一五八
五九八	五九八
五九九	五九九
六〇〇	六〇〇
六〇一	六〇一

水星　宵の星にして蠍座より蛇座に遷る十三日前六時最大離角に達し東方

一三度四八分にあり二十三日留(赤經一七時〇七分赤緯南二四度三八分)に達し逆行を始む赤經一五時四二分—一六時四七分赤緯南二一度五九分—二一度五九分にして視直徑は一四秒五十九秒七なり。

金星　曉の明星にして乙女座の北より星の北に居る十九日曉月の先驅を

なし二十四日午前七時最大離角に達し西方四六度四四分にあり赤經一時三五

分—一三時二〇分赤緯北一度五九分—南六度〇八分にして視直徑三・二秒乃第二

三秒なり。

火星　金星の先驅、土星に尾行し又獅子座乙女座に遷るす赤經二時〇一分

—一三時〇三分赤緯北七度五六分—北二度二五分にして視直徑は四・六—五・四

なり。

木星　獅子座の星の西方に輝き初曉出現して曉の空を賑かす十五日曉月の先驅

をなす赤經九時一六—二三分赤緯北一六度二九—一〇二分にして視直徑は三四一

二七秒なり。

土星　木星と獅子座の星を挟みて星の東方に位し獅子座をして一層賑かなら

しむ赤經一〇時四六—五三分赤緯北九度五分—八度五五分視直徑は約八秒なり

天王星　水瓶座の北(赤經二三時〇一、赤緯南二度五八—五三分)にあり

八日前二時半に達し順行に復す。

海王星　蟹座の東部木星の西數度(赤經八時五六分赤緯北一七度一八—一九分)

にあり十五日午後六時半となり逆行を始む。

光輝強き大紅焰

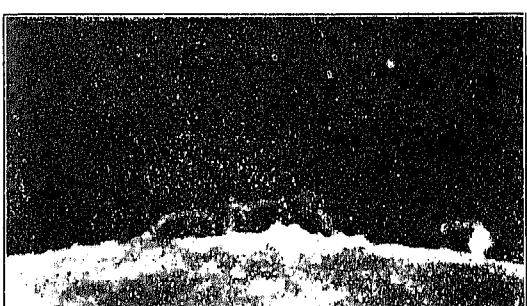
井 上 四 郎

紅焰の形狀は、種々あります。普通は、雲狀紅焰及び噴出性紅焰の二種に類別いたします。雲狀紅焰は、主に水素及びヘリュームより成立して

甲 圖



乙 圖



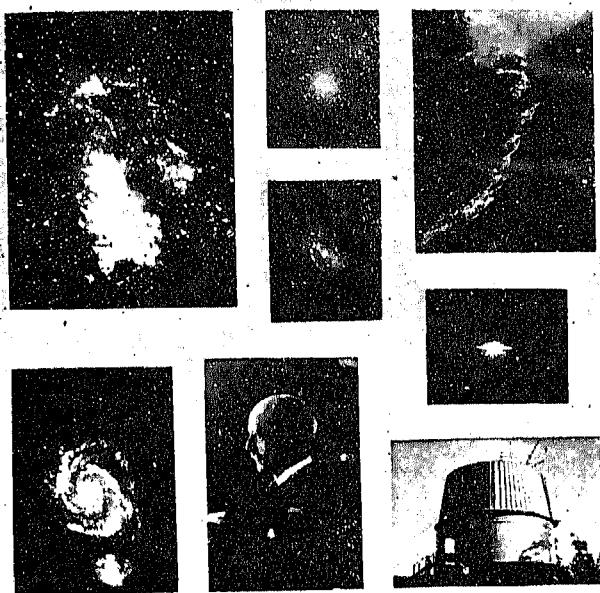
先月(九月)二十二日午前十時〇分、東京天文臺に於て、太陽面に存在するカルシュームの K_3 線(太陽面のスペクトル中カルシュームの線は三段に區分す。太き吸收線を K_1 とし、其中央にある輝線を K_2 とし、更に其輝線の中央にある細き暗線を K_3 とす)を利用して、分光太陽寫真をとりましたところ、最初甲圖に示す様な光輝頗る強烈なる大紅焰を認めました。次て三十八分後、即ち午前十時三十八分に、再び撮影して見ましたところ、其紅焰は、乙圖に示す如く、殆んど跡方なき程に消散して、唯僅に太陽面に近き所に二流の微光と山形を成せる強き光輝を認むるだけになりました。僅か三十八分間に、殆んど見る事が出来ない様になつた事は、此紅焰が如何に猛烈に活動しましたかを察知する事が出来ませう。

紅焰の高度は、特別高きものを除いては、平均約二萬五千哩程ありまして、地球の直徑の約三倍程あります。五六萬哩位のものは、珍らしい現象ではありません。甲圖に示せるものは、其高さを計算して見ましたら、約十萬哩程あります。分光太陽寫真をとりますと、度々紅焰の存在を認める事が

ありますが、此度撮りました様な、強度の光輝を放つてゐる様な紅焰は、實に稀なるものであります。又其活動の激烈なる點と、其形狀より考へますと、噴出性紅焰である事がわかります。

ローエルの記念寫眞

茲に掲載せる圖の原板は火星研究を以て有名なりし米國の



天文學者バーシバル・ローエル博士と親交ありしことは已に本紙に於て
恒次郎氏より、平山信博士を介して我東京天文臺に寄贈され
たるものにして、宮岡氏は寫眞の下部に附記されたる如く、
昨大正七年渡米の際ローエル天文臺より紀念として受けられ
たるものなり。此故に東京天文臺に於ては圖書室に掲げてロ
ーエル博士を紀念すべき好寫眞となせり。此度更に平山博士
に乞ふて我月報に掲載し會員諸君に紹介す。

宮岡氏がローエル博士と親交ありしことは已に本紙に於て
屢々傳へたる所にして、之までもローエル所寫の
火星土星其他の寫眞の寄贈を受け、其都度本紙亦
之を掲載以て閲覧に供したり。

中央 ローエル博士（博士の傳は第九卷第十二
號にあり）、其右なるはローエル天文臺二十四時赤
道儀、此赤道儀の上なるは星雲 M101、其又上
なるは白鳥座の網狀星雲。又博士の左なるは獵犬
座の螺旋星雲 M51、其上なるは射手座の星雲 M17
なり。

原圖の鮮明なるに比し本圖が然らざるは遺憾の
次第なるも、追て各個に就き掲載するの期あるべ
し。

終に本圖掲載に關し、宮岡氏及平山博士に感謝
の意を表す。（有田）

雜錄

理學博士寺尾壽先生の辭任

有田邦雄

東京帝國大學理學部勤務にして又東京天文臺の臺長我日本天文學會のためには創立以來此春まで會長なりし理學博士寺尾壽先生には先般辭表を呈出されたことは耳に致し、新聞紙上でも讀者諸君と共に屢々目撃した所なりしが、愈々其事が事實で而も上の聽許があつたものと見えて本日即ち此十月十日に官報を以て發表されたり。

先生が職を大學に奉ぜられしは遠く去明治十七年六月の事と聞けば夫以來已に三十六星霜を経たる次第なり。去る明治二十一年六月東京天文臺が帝國大學理學部(其頃は理科大學)の附屬となるや、先生は直に其臺長となる。之よりとて實に三十有三年の長年なり。先生が大學に於ける天文學講義、研究に加ふるに、天文臺にあつては又天文學の應用たる編曆報時等の諸事業を總べらるゝことに——天文臺長とならるゝ以前にも内務省御用掛りとして此等にたづさわり居られたりと聞く——一生を費やされたるなり。實に先生は我國天文學の鼻祖なると共に又我東京天文臺の開祖なりといふべし。

先生が大學に、又天文臺に就任の時代にあつては唯一人であつし爲め、たとへ御壯年にて心身共に旺盛なりしとはいへ

御骨折は想像の外なりしものゝ如し。爾來天文學、天文臺共に發展し、天文學の方は講座を増し、先生を加へて教授二、助教授二となれり。勿論講座の完備のためにもよることながら、近頃にあつては大に重荷を下されしなるべし。又天文臺に於ても執掌の事業が漸次擴張したるのみならず、此間移轉計畫の發案、同計畫の實施、移轉着手等の時代あり。是等の事に關し多大の貢獻、隠れたる盡力あり。未だ移轉の完成には前途遼遠なるも着々歩を進めつゝあることは大に先生に満足を與へたものゝ如し。

先生はまた天文學と密接なる關係を有する測地學界にも一方ならざる貢獻をされたりと聞く。去る明治二十二年巴里に於て開催されたる測地學萬國會議には本邦委員として列席、其後本邦に於ける測地學委員會の設置さるゝや、委員となり、委員長となり、更に去る明治四十二年秋には復測地學萬國會議に出席すべく歐洲に出張の外、臨時緯度觀測所所在地たる水澤に、基線所在地たりし相模野に出張されたること屢々なりしといふ。

先生の功績を述ぶることとなるとなか／＼余の如きの能く處ならず。先生が公の事に關係されたる事は帝國學士院の事、文部省教育員檢定試験の事等をはじめ數ある中に、上に言へる、天文學、天文臺、測地學のことには最も意を用ひられたる處、隨て貢献の度も偉大なものあり。

先生は還暦を過ぎて數年になるも、壯者を凌ぐほど健かに、殊に頭腦の明敏に至つては今尙驚嘆の外あらず、御自身に感ぜらるゝほど老を見難し。加ふるに御持前の英才の方なれ

ば御引退の如き他より思へば意外とする所なるが、先生は頗る謙讓の御方なれば、御自身已に老を感じられし以上引退を希望さるゝは先生にあり相なことなり。然し先生はかねて昔日の在學留學等より其後國家の待遇に對し重大なる責任を感じらるゝ人なれば之までとて、引退の意向を持たれながら、みだりに實行されざりしならん。

先生は先づ測地學委員會の委員長を辭任され、次に第一回以來毎度就任されし文部省檢定試驗臨時委員を昨年を最後として本年は辭退さる。之れは公の事ならざれど先生方によつて創立されし東京物理學校に於ける評判の名講義も本年は開かれずと聞く、又我天文學會に於ても創設以來十二年會長として戴きたるに是亦此春の會長改選に先ちて、近々今回の引退を豫報して終に固辭されたると會員諸君の熟知の事なるべし。最後に主なる御役なる帝國大學の方に辭表を呈出された次第なり。

先生は凡ての方面に優秀なる御氣象なる中に又美德を備へらるゝ、長官として部下を愛せらるゝことも其一なり。之が爲め此回御辭任が公になりしを見たる天文學關係の人々、天文臺の一団は恰も父の旅立に逢遇する子女、或は婚嫁せんとする婦の心にも等しきものありしなるべし。先生の意亦推察するに餘あり。然れども先生にとりては功成り名遂げての圓滿辭職、此上なき御目出度きことで謹んで祝意を表す。

先生は今なほ心身共に壯者を凌ぐ程の達者、加ふるに性來聰明にして老邁の人、折角の閑散、自由の身の邪魔をなすこと

は恐縮なれども直接間接に天文學天文臺の發展に援助を與へられることは言ふも更なり、我天文學會の爲めにも御指導をこふこと痛切なり。

終りに臨み會員と共に先生の芽出度き引退を祝し、國家のため學界の爲専心の御自愛を祈り、併せて秋別を名殘惜しひ。予は身分をも顧みず、貴重なる本紙を埋むることを恐入るものなれども、先生に嘗て教を受けたる最微なる弟子として又天文臺の一員として、且又天文學會の一員として聊か所感を述ぶること如此。

プラッセル國際科學研究評議會

去る七月十八日より二十八日に亘り、白國プラッセルに於て國際科學會議が開催せられたることは既報の如くなるが、ネーテニア八月十四日號に同會議の内容が載せられたれば次に摘要せん。

出席委員の國別はアメリカ、ベルギー、カナダ、フランスイギリス、イタリー、日本、ニウジランド、ボーランド、ルマニヤ、セルビヤなり。但しブラジル、オーストラリヤ、南アフリカ、ギリシャ及びホルトガルは代表者を出さざるも同評議會に加入せるものにして、其他の中立國にも追つて全部加入方を交渉する筈。

評議會の事業は三年毎に開かるべき總會の指揮下にあり總會にて指命せられたる五名の執行委員は次期總會まで會務を取扱ふ筈となれるが、今回五名の執行委員佛ビカール、英

ショスター、米ヘル、伊ボルテラ、白ルコアント諸氏皆再選

せられ、夫等の人々は會の實質、組織に就き熟議を遂げ、次期總會までに確定案として提出する責を負ふ。

各専門科學の國際的研究機關の組織に就きては巴里會議以後

大に進捗し、中には既に細目に亘りて二、三の分會の設定を了せるものあるが、今より委員を擧げて次期總會までに分會問題其他を會議する可とせるものもありたり。

既に巴里會議の際設立されたる「天文同盟」は今回其定款が可決せられ、各分科の國際的研究機關（各國が別々に各分科の研究機關を設定することを止めて夫等をも國際的にせんとするもの）の設置委員任命せられて其形式的完成を見たり。該同盟の座長は佛ベイヨー氏にして書記長は英フォーラー氏なり。

昨年十一月矢張巴里にて設立されたる「測地學地球物理學同盟」は五、六の分科を含み、戰前に於て多年に亘りそれぞれ特殊の機關を有せしものなるが、今回は夫等を一先づ解散し、改めて同盟の一部として加入することとなり、各部はそれぞれの國際執行委員を有することとなれり。同盟の定款（評議會のと大同小異）は可決せられ、部會は測地學、地震學、氣象學、地球磁氣電氣學、大洋物理學、火山學の六と決定せられたり。このうち測地學部は以前存在せし萬國測地學會に代はれるものにして、緯度變化は今後天文同盟の方に編入換とする方可なるべしと衆議決せるを以て天文同盟の方にては委員を擧げて此問題を審議することとなれり。本部の座長には米海陸測量部のボウイー大尉書記には佛陸軍地理局のペリー

大佐選ばれたり。

地震學部は戰前のもの明年四月一日まで存續するを以て（其中央局は現佛領ストラスブルクにあり）それまでは何等の處置に出づる能はず。

氣象學部には英ショー氏座長に、米マービン氏書記に選ばれたり。從來は氣象臺長の國際委員會ありて行政、技術問題が論ぜられ、國際共同事業が相談せられつゝありたるものなが、氣象學的觀測は勿論氣象豫報といふ行政的要要求に屬せざる問題に於ても國際的研究を要すべきもの多々ありて、それがための國際的機關の必要は極めて大なり。

地球磁氣學の國際的研究はこれまで國際氣象學委員會の任命せる小委員會にて取扱ひ居たるが、今回これは空氣中の電氣現象と共に別個の部會にて取扱ふを可とするに衆議一決せり。而して同部會は氣象學部及び「物理學同盟」と協力して研究を遂行する筈なり。本部會の座長には田中館博士選ばれ、書記にはカーネギー學院のバウエル氏選ばれたり。

此外新たに設定せられたる二部會あり。大洋物理學部は海洋の潮汐、潮流、溫度、密度、鹽度其他の現象を取扱ふものにして、座長なく、副座長にラム教授選ばれ、書記にヴェニス水路部のマグリニー氏選ばる。火山學部は火山の化學的ならびに物理學的現象を取扱ふものにして座長にはエトナ觀測所のリッコー教授、書記にはマラドラ氏選ばれたり。

各同盟の執行委員會は會長一名、副會長、（各部會の座長）數名及び書記長一名より成立す。「測地學、地球物理學同盟」に於ては佛國水準測量局長ラルマン氏會長に、リヨンヌ大佐

書記に選ばれたり。

數學同盟に於はルヴァン大學ヴァレ・ブサン教授會長に選ばれたるが、未だ部會も定められず。明年ストラスブルグに於て集會を催ほし同盟の組織に就き評議を重ねる筈なりといふ。

化學同盟に於ては出席専門學者の數少なきため今は機關の組織につき何等決定を見ざりし。

物理學同盟組織の議あり、其成立は後日に延期せられ創立委員を任命して次期總會に間に合ふ様にし、又物理學發達に重要な種々の計畫を攻究せしむることとせり。

國際研究評議會の法作上の所在地はブラッセルにして定期總會は同地にて開催せらるべきものなり。而して書記局は依然ロンドンにありてローヤル・ソサイテーの一室を借りるものなり。同盟及び諸部會は總會又は執行委員の決定したる時、場所に於て集會すべき筈なり。(小川)

雜 誌

●去五月の日食觀測成績 アフリカ東岸プリンチャ島に出現せる英國觀測隊は餘り良好なる天候に會せざりしも多少有用なる結果を收め得たり。撮影せる種板のうち十個は探檢の主要目的の點よりいへば役に立たざりしも(雲のため)當時太陽の縁にありし大紅焰の見事なる寫眞として價値あるものといひ得べしといふ。而して残りの六枚の種板には牡牛座カツバ星其他二、三の星の像を現はせるにより、夫等の測定よりして

學界より非常の期待を以て迎へられつゝある變位の有無が明かとなる筈なり。

●コロナの寫生 昨年六月米國に於ける皆既日食に於て日食の光景を實際の色彩を以て描寫せんとする熱心なる努力が試みられたり。紐育のイー・デー・アダムスといふ科學保護者は合衆國海軍天文臺の日食觀測隊に加はりて此方面の活動をなせり。而してこれには天然色寫眞は到底思ひもよらざることなれば有名なる肖像畫家ホワード・ラッセル・バッラーの手を藉りたり、氏は形及び彩色を書き取る速記法を案出して出掛けたるが、畫板には豫じめ太陽を表はす圓と半徑及び角度を記入しあり、且つ勘定すべき現象をも前以て教はり居たり。而して日蝕の際には皆既時間百十二秒間にコロナ及び紅焰のスケッチを速寫すると同時に其色彩をも氏の創意にかかる數字を以て記入したり。

最初に出來あがれる圖は寫眞と比較して光輝の輪廓を修正し、かくて完成せる見事なる寫生畫(コロナ及び紅焰のみならず、周圍の空をも描出せる)は米國博物館に於て展覽に供せられたりといふ。

●金星の極冠 金星の南北兩極附近に屬し輝ける白斑を見ることがあるは觀測者の能く知るところなるが、最近に英のネルソンなる人が去六月十一日に之を容易く認め得たりとて報告せるものあるが、その使用せる望遠鏡はヤーフォードの二吋鏡遠鏡にして、百六十倍率を用ひたりと。同月十五日佛國デュビシー天文臺のフランマリオン氏は日徑〇・二四米(約十時)の赤道儀にて餘り良好ならざる大氣狀況の下に來觀者の一團に

金星の北極附近にある白斑を見物せしめたらのことなるが時刻は午後四時(夏時)なりしと。

◎コップ彗星 ハルク氏はコップ彗星(一九〇六年第四彗星)につきオーヴィングの算定せる軌道要素(ナハリヒテン一九四卷)に於て平均離角にプラス二三・四八分の補正を施したるものを以て計算せる推算表を公にせるが(ナハリヒテン四九九六號)去八月中に行へる實測との比較によれば赤緯に於て約マイナス七分の補正を必要とすといふ。而して八月下旬中に於ける計算光度は十一等なるが、近日點經過をなせるは去六月二十八日なり。

なほオブザーバリーリー誌によれば、本彗星は七月三十日、ハイデルベルヒのマックス、ウルフ氏によりて發見された。光度約十等なり。前回の近日點通過(1912 Nov. 30)には位置太陽の附近なりし故發見されたりし。

◎一九一九年ニ彗星(1847V Broersen) ハッセンヘーゲンより近着の書信によれば本年八月二十日メトカーフ氏によりて彗星發見れたり、八月二十一日(ハルクス)八月二十二日(ワシントン)八月二十五日(ハッセンヘーゲン)の観測によりて求めたる軌道要素次の如し。

近日點通過時 $T = 1919 \text{ X } 16.1984$ 赤城平野時
昇交點より近日點までの角 $\omega = 128^{\circ} 33' 32''$
昇交點の黃緯 $\Omega = 311^{\circ} 22' 33''$ 1919.0
軌道面の傾斜 $i = 19^{\circ} 58' 03''$
近日點距離 $\log q = 9.68980$

此れによつて其概略位置を計算したる結果次表の如し。

(金風、鹿田茂、同合註算)

接近日時	赤經 $h\ a.m.$	赤緯 m	太陽よりの距離 $N 110^{\circ} 57'$	地球よりの距離 地平上 m	光度
1919 XI 5.0	11 42.7		0.48	0.83	8.0
25.0	12 10.5	S 0 47'	0.53	1.08	9.0
XI 4.0	12 37.7	S 6 47'	0.66	1.28	9.5
14.0	13 43	S 11 41'	0.82	1.46	10.2

本彗星は八月廿日蠍座に發見られ八月廿六日アガヌス座の南部にあり北方に進行して、九月五日龍座の北、九月八日小熊座のβの附近を經て九月二十五日獵犬座の東南部を経て、十月中旬に於て獅子座の附近にあり、漸次南方へ進行しつゝあり。光度は九月九日頃最大にして、六、四等なりしも漸次減少して十月中旬八等、十一月中旬十等となる。

尙調査する所によれば本彗星は一八四七年七月二十日アルトナに於て發見されたるプローセン彗星と同一物なるべしアローセン彗星は當時八週間程觀測され、其結果、ハリー彗星ウエストブルール彗星等と共に海王星屬彗星にして其週期は約八十年位なるべしと。今参考の爲め其軌道要素を示せば

$$T = 1817. IX 9.5$$

$$\begin{aligned} \omega &= 129^{\circ} 3 \\ \Omega &= 30^{\circ}.8 \\ i &= 16.1 \\ q &= 0.488 \\ e &= 0.947 \\ a &= 18.17 \\ \text{周期} &= 81.1 \text{ years} \end{aligned}$$

然し其週期は甚だ不確かにして充分信を置き難かりしも D' Arrest 氏の調査せる所によれば約七十五年位なるべし。

即週期七四・九七年として次回の出現は一九一一年に信せられしが、只前一回の出現のみなる故之れとても充分正確なるものならざらしが、今回突然出現せしなり。我東京天文臺は大戰前はキーラより直接新發見電報を得るの便ありしも戰後未だ歐米よりの學術電報を接受するの便宜を得ず僅かに書信或は雑誌によりて知り得るのみなる故彗星の如く觀望の期を失すこと多きは誠に遺憾の至りなりとす。(辰)

●一九一九年。彗星 八月廿二日メトカーハ氏によりて一新彗星發見されたり、其近日點通過は十一月十九日にして現今に於ける概略の位置は左の如し。(辰)

赤緯	赤緯	等級
X 27.0 16 21.4	S 54° 8' 8.3	
XI 2.0 16 38.5	S 7° 20' 8.2	
XI 8.0 16 50.2	S 10° 32' 8.2	

●ハヤウマセ彗星(1911VII) 一九一一年十一月三十一日佛國ニース天文臺シヤウトヤ氏によりて發見せられたる彗星は取り敢へず一九一一年として觀測された、其結果同彗星は約八年餘の週期を有する週期彗星なることが知られた、即其軌道要素は次の如くである。

接觸(Osculation) 1912 II 27.0 G. M. T.

$$M = 120^\circ 56' 33'' 0'$$

$$\pi = 137^\circ 59' 53'' 6'$$

$$i = 17^\circ 42' 0.3'$$

$$e = 44^\circ 2' 8'$$

$$\mu = 439.8297$$

一九一九年十一月木星にかなり接近せる故に木星及土星の攝動を考へに入れて計算せられたるヘーリ・シャウタッセ計算軌道要素は次の如し。(Comptes Rendus)

Osculation 1912, X 8.0 G. M. T. 又は T=1919 XI 7.675 G. M. T.

$$\begin{aligned} M &= 356^\circ 21' 59.76' \\ \pi &= 136^\circ 29' 14.5' \\ \Omega &= 93^\circ 41' 20.9' \\ i &= 14^\circ 43' 10.8' \\ \varphi &= 45^\circ 3' 17.8' \end{aligned}$$

$$\text{Period} = 7.8993 \text{ years}$$

$$\mu = 441.7622$$

此によれば其週期は約七年十ヶ月にして、今年十一月八日近日點を通過すべれば、發見せらるべき日期にあるも未だ發見の報に接せらる。今之れが搜索に便せんが爲めに次に其推算位置表を掲ぐれば(會員神田茂氏計算)

接觸時	赤緯 h m	赤緯 S m	太陽よりの 距離	地球よりの 距離	光度
X 28.0	19 14.5	N 11° 47'	1.18	1.54	12.3
XI 7.0	11 55.2	9 4	1.17	1.54	12.3
17.0	12 31.5	6 13	1.17	1.55	12.3
27.0	13 11.7	3 27	1.20	1.55	12.4
XII 7.0	13 46.4	0 47	1.23	1.59	12.5

光度は、前回出現の際の標準光度を十一等星として算定せられたる。(辰)

●フレヤードスの距離 カバタイン教授は星團中にある各等級の星を數えて星の平均視差を見出す間接方法を見出せるが、此方法は星團中に於ける種々の光力(絶對等級)の星の分布状態を知る要であつ。これを知る時は外見(見掛け)等級は光力と

此れに依れば次回の近日點通過は一九一九年十一月頃なるも

視差の函数なるを以て、視差も知り得らる。和蘭のショーテン氏は此方法を用ひて種々の星團の距離の算定を試みたり。そのうちブレヤデスに關するものは次の如し。

ブレヤデスの星表の現存せるもの五個あり。ヴァルフ、シャリエー、ガウルチエー、ラグルラ及びフナテクの星表これなり。夫等を用ひて出せる視差はそれぞれ〇・〇四九、〇・〇二一、〇・

〇三〇〇・〇四三及び〇・〇三七秒にして平均〇・〇三六秒となる(平分誤差〇・〇一〇秒)。初めの二つの結果は疑はしさを以て夫れを除きたる平均をとれば〇・〇三七秒となり、あまり違はず。さればブレヤデスの最も確らしき視差は〇・〇三六秒なりしと承認して可なるべし。これは八十八光年にあたる(ブレセーブの視差は〇・〇二四秒なり)。從前カブタイン(一九一二年)及びブランマー(一九一三年)教授の矢張他の間接方法にて見出せる結果(同一方法、同一材料を用ひたる)はそぞれ〇・〇一八秒及び〇・〇二四秒なり。ショーテン氏は是等が氏の結果と餘り大して違はざるは自分の方法の有力なる保證なりとせり。

序でにショーテン氏はブレヤデス星團には十一等以下の星が存在せざるを注意せり。即ちブレヤデス星團は外見等級四五より十一等〇までの星を含むものにして、夫等の絶対等級は二・三・等より八・八等に亘るといふ。

●鰐座新星の暫定視差 ファンマーネン及びサンフォード兩氏は昨年の鰐座第三新星に就き十一枚の寫眞を撮り、トリュンブルーの決定せる固有運動の値を用ひて其視差を算定せるが其結果は〇・〇六〇秒(平分誤差〇・〇〇四秒)となれり。これに

よれば極大光輝の際の絶対等級は負二・四等にして、極小實視光度は一〇・五等とせば極小絶対等級は九・四等となる。是れまで視差の知られたる三つの新星(マルセウス座第二新星、双子座第二新星及びトカゲ座新星)に於ては極大、極小の平均絶対等級それぞれ負二・九等及び六・九等となり、鰐座新星の結果はこれに能く調和するを見るなり。

尙ほ兩氏が今年六月四日觀測せるところによれば新星は直徑一秒強の甚だ小なる惑星狀星雲の外觀ありたりといふ。

●アンドロメダ星雲中の第十二、第十三新星 アンドロメダ星雲中に検出せられたる第十、第十一新星に就いては本誌二月號に報ぜるが其後更に二個の新星が追加せられたり。サンフォード氏が六十時反射望遠鏡を用ひて一九一九年一月四、五日に撮れる寫眞板上に認められたるものにして光度極めて微弱なるが、(一七・〇等及び一七・四等)、星雲の中核に對する位置角は第十二新星が三三五秒北、八五秒西にして、第十三新星のは二七五秒南二二〇秒西なり。其後二月三日に撮れる寫眞に於ては第十二新星は尙ほ認められたるも(一七・三等)、第十三新星は全く跡方もなかりし(寫眞は十八等までの星を示す)といふ。

アンドロメダ星雲中にある六個の新星(第二、三、四、五、六及び十)の光輝より判すれば光輝の衰退は平均一日に一等の百分ノ五となる。即ち平均二十日間に一等級弱くなる割合なり。

●鯨座ミラの昨年の極大 佛國天文學會々員數氏が昨年鯨座ミラの極大前後に於ける光度觀測の結果が同會雜誌ラスト

ロノミー七月號に載せられるあるを見るに、各観測者の導ける

極大時刻と光度はそれぞれ十月五日(三・三等)、九月二十三日(三・〇等)、十月十一日(約三・九等)、九月二十一日(三・三等)、及び九月二十五日(三・二等)なり。別に九月十日(三・六五等)と十月五日(三・八五等)の二つの極大ありたりと報告せる観測者あり。極大が十月五日とせる観測者は九月十一日乃至二十六日に無観測なるに鑑むるときは結局昨年に於ける鯨座ミラの極大時刻は九月二十三日なりしとすべし。而して其際に於ての光度は少くとも三等半には達せるものなるが如し。一年前の極大は十月五日頃なりし。一般に採用せられつゝある平均週期三三一日を以てすれば本年の極大は八月二十日頃となる譯なるが果して如何なりしか。近年鯨座ミラの極大光輝は比較的微弱にして三等を突破するを得ざるが、一九〇六年には丁度二等に達せしなり。

●米國に於ける日光節約法廢止 北米合衆國議會が日光節約法廢止を決議し、大統領の反対を買へることは去六月十八日、七月二十一日、及次八月中旬の國際通信局盛頓電報として新聞紙上に報道せられしも、結局如何になりしやは報せられずして蛇尾の觀あらしめたるが、最近ソシントン天文臺のバルトン氏より平山(清次)博士宛ての私信に據れば該法は廢止に確定したるを知るべし。バルトン氏の書簡は卒直にして軽きユーモアに富み讀者にも興味あるべしと思はるゝを以て同博士に乞ひ、次に其一部を紹介せん

(前略)議會は日光節約廢止法案を通過した。ウイルソン大統領は是れを再議に附したが、矢張駄目であつた。來年吾

々は時計を進めないことになる。

自分は日光節約法には大賛成であつた、執務時間後にニュースをやる時間がタツブリあるので、又園藝趣味のある人達も懶々怠りが出来るといふ事情から大に賛成であつた。併し自分にも一つ困つた事があつた。それは夜間の二十六時盤遠鏡観測と翌朝の執務時間との間隔が近すぎることであつた。

(中略)日光節約法反対者の筆頭は農民である。議會など、云ふものは農民の御機嫌取りに夢中になつて居るもので、市民など眼中はない。農民共は曰ふ、市民が日光節約をやりたいなら唯一時間早く仕事を初めればよからう。時計をいちぢり廻さなくとも宜いのだと。自分は思ふ、農民は時間割通りに働く譯ぢやないのだから、何もむきになつて日光節約法に抗議を申込むこともあるまいにと。察するところ反対論の内實は夜間田舎から町へ出掛けて行く農場労働者の苦情にあるらしい。兎もれ來年にでもなつたら市民側はいづれ専用日光節約案でも工夫することであらうと思ふ
(下略)

●獨逸に於ける新暦法案 去九月十五日東京日々新聞に十二日發倫敦特電として次の記事載せられたり。眞偽未だ明かならずと雖も参考として掲げん。
今回獨逸國民議會に十日を以て一週間、三十日を以て一個月とし、十日毎に休日、五日毎に半休となす新暦法案提出せられたり。

●印度の天神 ジー・アール・カエ氏は去る七月一日カルカッ

水路告示第五九號第一九七項

新西蘭北島—Awana river 無電報時信號設置

一 記事 Wellington Hector Observatory [要求セバ Awana 無線電信局ヲ經テ左記時刻ニ無電報時信號ヲ得ラルベシ

一位置 Awana 無線電信局 南緯三四度五四分 東經一七三度一八分

一 信號 番號 標準時 緑威平時

第一	九時三四分零秒	二二時零分零秒
第二	同 三分零秒	同 一分零秒
第三	同 三二分零秒	同 二分零秒
第四	九時三四分零秒	二二時 四分零秒
第五	同 三五分零秒	同 五分零秒

一 注意 一信號後三分時ニハ信號ナシ 各信號ハ約一秒間トス 使用電波長ハ二、〇〇〇米トス

一 關係海圖 第八〇一號 同三〇八頁

一 出所 一九一八年水路部告示第八一七號

一 關係誌類 大正七年海軍航海年表下卷二八八頁同八年

タ市のベンガル亞細亞學會に於て印度の天文神なる表題にて數多の珍奇なる寫眞入りの講演を爲せりと。詳しきことは分らざれども主としてナザマクラハ(九曜星)に關する考證的研究の結果を公にせるものにして、氏は印度に於ける本統の太陽及び惑星崇拜は固有思想に基けるものにあらずして外來起源のものなるを論じたり。

●天文雜誌の値上げ 英國に於ける篤志天文觀測家の機關雜誌たる大英天文協會雜誌は從來會費年半ギニヤ(十圓餘)なりしが、これは十數年前にありても比較的低額なりしものとて、今回大戰亂の副產物たる勞銀物價狂騰のため印刷費等大勝貴をなしたるため經營困難に陥りし結果止むを得ず會費を倍額の一ギニヤに値上したりと。又オブサベトリ一誌も從來一部賣價一シリングなりしを同様の理由により五割値上げし來年より實行することとなれりといふ。値上げとはいへ一般的物價賃銀の戰前に數倍せる今日に於ては尙大に安きに失するものといふべく、それにて果して經營難を切抜け得るとせば慶すべし。

●新ドレバー星表 現在ドレバーの恒星スペクトル表は九一〇個の星を含めるが、最近完成せる大増補新表(其一部分は既に印刷に取懸れり)は約二二三〇〇〇個の星のスペクトル型を示せるものなりといへば、其出版後天文學界に益するところ料り知る可らざる程偉大なるものなるべしと期待せられつあり。

●新西蘭島の無線報時 大正七年十一月二日官報に次の記事あり。

二十三日午後二時半に初まり南南西強風を伴ふ。雨止み風向北北西に變するや風速急激に加はり夜半毎秒十八米、それより断えず加はり二十四日午前四時二十五分乃至三十分の間に最高風速毎秒四十米に達す。同午前五時より六時までは毎秒三十八米、それより少しく衰へたるも二十九日午前四時頃まで約五十二時間に亘り依然猛烈なる颶風を吹續す。二十四日午前三時より同八時までの平均風速は秒三十四米なり。二十

三日夜半より二十四日夜半まで吹走距離約千三百哩、毎秒平均風速二十五米なり前記五十二時間に於ける平均風速は毎秒約二十二米なり。風向は其間變らず北北なりしと。

天文臺の建物は能く此颶風に對抗するを得たり。唯一の被害は松の大木が六本根こぎにされたるにあり。夫等はいづれも百叶塔望遠鏡の東北九十米許にあり。最大の樹幹の直徑五呎あり樹齡四百歲位。他方面の樹木に餘り著しき被害なく夫等のみが大なる被害ありたるは風の逃げ路に當り特に禪猛なる打撃を蒙れるためなるべしと。

◎メトカーフ彗星(1919)の觀測 十月十七日の夜コツペン

ヘーレンより東京天文臺へ到着せる葉書に載せられたる、該

彗星の豫備的軌道要素によりて、同臺の大脳、河合氏の計算したる位置表をあてにして、十月十八日夕刻に彗星の觀測を開始した、晴天なりしも西方に雲堤あり、午後六時四十分、河合氏は七時赤道儀によりて觀望し得たるも直ちに雲の爲め見失ひ位置を精測することを得ざりき。直徑約三分計りの橢圓状をなし、光輝は推算よりは稍強き模様、尾は見えざりき。十月廿一日夕刻は晴天の爲め觀望することを得たり。又同臺

に於ける戸田助手は二葉の寫真を撮ることを得たるが、之によりて見るに廿一日午後六時三十分に於ける位置は概略

赤經 一六時八分
赤緯 南 ○度五一分

にして蛇座 α と蛇遺座 δ との殆んど中間に在り。光度は約八等より稍強き様なれば、稍良好なる望遠鏡を所持する人は容易に觀望し得べし。

今後に於ける位置は赤經、赤緯に於て南東に進行するも見掛けの位置は夕刻正西より漸次南に進み日没後二時間半位にて地平線下に沒す。光輝は漸々増しつゝある故に暫くの間は觀望し得らるべし。

◎大流星の觀測 八月三十一日午後九時二十分、(土佐山田町郵便局附近にて觀望)偉大なる流星銀河牽牛星の下方五度位の處より、銀河に沿ふて外方三十五度位を三秒間とびて橙色の尾あり直線なり、尾は一秒間残りて消失す。

(會員猪野則俊氏報)

附記す會員諸氏にして流星の觀測されたるものあらば競ふて御報告あられんことを希望す。

◎フインレー氏彗星 本年十月初めに近日眞通過の豫定なりし同彗星は、京都大學天文臺佐々木氏によりて發見されたり。光度九等星にして、其位置は次の如し。

十月二十六日午後七時

赤經 二〇時二十六分、赤緯南二六度二十分
東方へ一日約二度位づゝ運動す。詳細は追て記述すべし。

十一月の天象

太陽

同南視赤高度半徑緯經出入方向

南一四度四八
一一六度四九分
一一一分一秒二
三八度〇八分八
南一九度六時四一分

南二一五度〇七分
一一六分一三分
一一時二七分二
三四度一四分
六時二三分
四時三一分
南二四度四

主なる氣節
(黃經二二五度)
(黃經二百〇度)

小立雪冬日洋及其關係、歐、亞(非)、南北米諸大陸の一部に於て金環食或は部分食見らる

午前一〇時刻
午前八時四三分
午前〇時四三分
午後九時二〇分
午前一時・四時・九時二〇分
午後一〇時五八分三一八日午前〇時二九分
午後八時一二分
午後五時二六分
一三・七との間に於て大西

見ゆ

變光星

牡牛座アルゴル星の極小(週期二日二〇時八)
星の極小(週期三日二二時九)
琴座アルゴル星の極小(週期二日二〇時八)
星の極小(週期三日二二時九)
五十日前三時・六
三十角形R座星(赤經二時三三分赤緯北三三度五三分範圍五・三一・二〇週期二
六五日)の極大は十一月十三日
大熊底T星(赤經二時三三分赤緯北五九度五七分範圍五・五一・二・七週期二
五七日)の極大は十一月十五日
海蛇座丘星(赤經二時二五分赤緯南二二度五〇分範圍三・五一・〇・一週期三
〇三日)の極大は十一月三十日
八水瓶座丘星(赤經二時三九分赤緯南一五度四六分範圍六・〇・一・〇・八週期三
八十七日)の極大は十一月二十七日

流星群

日	輻射點		日	輻射點	
	赤經	赤緯		赤經	赤緯
1	34°	+23°	16	150°	+22°
2	58	+ 9	17	25	+43
3	61	+35	18	25	+43
4	61	+35	19	25	+43
5	61	+35	20	25	+43
6	61	+35	21	63	+22
7	77	+31	22	63	+22
8	58	+16	23	63	+22
9	105	+51	24	145	+ 8
10	59	+18	25	155	+37
11	108	+11	26	161	+58
12	43	+21	27	64	+22
13	150	+22	28	64	+22
14	150	+22	29	81	+23
15	150	+22	30	190	+58

東京で見える星の掩蔽

日	星名	等級	潜入		出現		月齢
			中標天文時	方向	中標天文時	方向	
3	9. Piscium	6.4	h 6 8	42	h 6 53	322	10.6
4	16. Piscium	5.7	11 49	29	12 54	180	11.8
8	175.B. Arietis	6.4	9 1	79	9 45	356	15.6
9	129.H. Tauri	5.8	12 5	66	12 52	330	16.8
10	372.B. Thuri	6.1	7 40	102	8 21	1	17.6
10	χ' Orionis	4.5	17 48	306	18 39	256	18.0
13	A ₁ Cancri	5.5	12 19	152	13 31	221	20.8
13	A ₂ Cancri	5.7	15 7	204	16 1	269	20.9
30	51. Aquarii	5.8	10 24	47	11 13	159	8.0

方向は真點より時計の針と反対の向に算す

廣 告

本會は天文學の進歩及び普及を圖る爲め毎月一回雑誌天文月報を發行して弘く之を販賣す。

本會は學術講演等の爲め毎年四月及び十一月に定會を開く。

會員たらんとするには姓名住所職業及び生年月を明記し一年或は夫以上の會費を添へ申込むべし、特別會員たらんとするには紹介者二名を要す。

會員には雑誌を送附す。

會費は特別會員一ヶ年金貳圓通常會員同壹圓貳拾錢とす、一時金貳拾五圓以上を納むるものは會費を要せずして終身特別會員たるを得。

新たに入會せる會員には會費納付期間の既刊雑誌をも送附すべし。

大正八年十月

日本天文學會

明治四十二年三月三十日第三種郵便物認可
(毎月一回十五日發行) 定金(郵便料)
大正八年十月十二日印刷納本 郵資五銭

東京市麻布區倉町三丁目十七番地
東京天文學會
編輯人木田觀二
發行所日本天文學會

東京市神田區美士代町二丁目一番地
印 刷 人鳥越太郎
東京市神田區美士代町二丁目一番地
印 刷 所三勞會

東京市神田區美士代町二丁目一番地
賣 上田屋書店
東京市神田區美士代町二丁目一番地
第十一卷賣價郵稅共五十五銭
東京市神田區元政新町三丁目一
北 亂 論 言 書店

日本天文學會編

星 座 早 見

定價金五十銭
郵稅金八銭

發行所

東京市神田區裏神保町
三省堂書店

通俗天文講話

定價金五十銭
郵稅金四十銭

發行所

東京市京橋區銀座
大日本圖書株式會社

天 文 月 報

自第一卷賣價郵稅共
至第十卷各金五十銭

發行所

日本天文學會

是迄は圖書の購求を本會へ御依頼の方もありしが今後は夫々の發行所へ御申込ありたし。

日本天文學會